

締め切り

2024. 4. 26

「仕事にも人生にも締め切りがあります。ですから、常に先を見通して時間を無駄にせず、一つひとつの仕事をスピード感をもって仕上げていくことが大事です。」

このような一節が目にとまった。なるほど、人生にも締め切りがあるのか。今まで、仕事の締め切りは、常に意識してきた。提出日や提案期日などから逆算して仕事のスケジュールを考える。締め切りの3日前までには終わらせる。そうしないと、ミスがあったときに間に合わなくなる。仕事というのは、ギリギリになればなるほど、ミスが増え、質も下がる。早め早めの方がミスが少なく、質も担保される。

今でこそ、こんなことを言っているが、若い頃は、ギリギリに間に合わせるプロだった。まだ間に合う、まだ大丈夫という計算が頭にあった。なぜ、こうなってしまうのか。取りかかりが遅いのである。すなわち、やりたくないなのである。嫌なことは後回しにしがちである。

いつの頃からだろうか。仕事のオーダーが入り次第、すぐに取りかかるようになった。一度、終わらせておき、しばらく置いておく。そして、締め切りの数日前に、もう一度見てみる。仕事を熟成させておくのである。これは、文章も同じである。この「園長通信～こころ～」もそうである。一つ一つの原稿に熟成期間がある。

仕事は、すぐに着手した方が、アイデアが浮かぶし、楽しい。次から次へと処理していくと、仕事にリズムが出てくる。波に乗れる。ところが、調子に乗って早くやりすぎると、終わったことを忘れてしまうことがある。そうすると、同じ仕事をやろうとしてしまうことがある。そして、途中までいき、「あれっ、これやったな」となる。

仕事の締め切りは容易に意識できる。問題は、人生の締め切りである。4月からの新しい生活だが、ようやくペースがつかめるようになってきた。職場の皆さんのおかげである。今回は、人生の一つの区切りである年齢を迎えて、人生の締め切りという言葉に反応した。

仕事に当てはめて考えれば、逆算してスケジュールを立てなければならない。むずかしいのは、締め切りがいつなのかがはっきりしないことである。だから、意識しづらい。本気で考えるタイミングをつかみづらい。

そこで、考えた。今が、ここ数年が、本気で考える時機なのではないか。そうすると、非常に大事な時間となる。このことに関しては、若い頃のようにギリギリのプロではいけない。早め早めに取りかかり、熟成期間も設けるくらいでよい。一度できたプランを上書きしていくイメージである。無駄にしてしまう時間をいかに減らすか。それがポイントである。